

成瀬 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅰ

教科： 数学 科目： 数学Ⅰ 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： (1・2組：青木・高橋・鬼頭)(3・4組：鬼頭・荻原・前山)(5・6組：青木・荻原・前山)(7組：高橋・前山)

使用教科書： (数研出版「数学Ⅰ」)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。②事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	①数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、②図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、③事象を的確に表現してその特徴を表す式・グラフを交互に関連付けて考察する力、④適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、を養う。	①数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を養う。②粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 【知・技】数と式について理解できるようにする。 【思・判・表】数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形できるようにする。	1. 多項式 2. 多項式の加法と減法及び乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用 ・一人1台端末の活用	【知・技】数を実数まで拡張する意義や、不等式の解の意味・性質を理解するとともに、簡単な無理数の計算をしたり、2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をしたり、1次不等式の解を求めることができる。 【思・判・表】既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。1次方程式を解く方法や不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 【態度】数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	第2章 集合と命題 【知・技】集合と命題について理解できるようにする。 【思・判・表】命題の証明をできるようにする。	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	【知・技】集合と命題の基本的な概念を理解している。 【思・判・表】命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9
	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 【知・技】2次関数について理解できるようにする。 【思・判・表】関数についての特徴を表、式、グラフと関連付けて考察することができるようにする。	1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大と最小 ・一人1台端末の活用	【知・技】2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 【思・判・表】2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができる。 【態度】2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学期	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 【知・技】2次不等式について理解できるようにする。 【思・判・表】2次不等式をグラフと関連付けて考察することができるようにする。	4. 2次関数の決定 5. 2次方程式 6. グラフと2次方程式 7. グラフと2次不等式 ・一人1台端末の活用	【知・技】2次方程式の解や2次不等式の解と、2次関数のグラフとの関係について理解し、2次不等式の解を求めることができる。 【思・判・表】2次関数のグラフと2次不等式の解との関係について考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1
	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 【知・技】図形と計量について理解できるようにする。 【思・判・表】図形の性質や計量について論理的に考察し、表現できるようにする。	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 ・一人1台端末の活用	【知・技】鋭角の三角比の意味や、相互関係、三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思・判・表】図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【態度】図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	21
定期考査			○	○		1	
3 学期	第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 【思・判・表】図形の性質や計量について論理的に考察し、表現できるようにする。	7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 ・一人1台端末の活用	【知・技】既習内容を理解し、面積等を求めることができる。 【思・判・表】図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象等を数学的に捉え、問題を解決したり考察したりすることができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9
	第5章 データの分析 【知・技】データの分析について理解できるようにする。 【思・判・表】適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、考察できるようにする。	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方 ・一人1台端末の活用	【知・技】分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 【思・判・表】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 【態度】データの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		合計 105

成瀬 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科 数学

科目 数学A

単位数 2 単位

対象学年組 第 1 学年 1 組～ 7 組

教科担当者 (1組: 前山) (2組: 前山) (3組: 駒場) (4組: 榮) (5組: 高橋) (6組: 真保) (7組: 榮)

使用教科書 (数研出版「数学A」)

教科 数学

の目標:

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。②数学と人間の活動の関係について認識を深める。③事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	①図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし論理的に考察する力を養う。②不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。③数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	①数学のよさを認識し活用しようとする態度を養う。②粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 【知・技】場合の数について理解できるようにする。 【思・判・表】場合の数について考察できるようにする。	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ ・一人1台端末の活用	【知・技】集合の要素の個数に関する基本的な関係や順列・組合せの意味を理解し、総数を求めることができる。 【思・判・表】場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 【態度】場合の数を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第2節 確率 【知・技】確率について理解できるようにする。 【思・判・表】確率について考察できるようにする。	6. 事象と確率 7. 確率の基本的性質 8. 独立な試行の確率 ・一人1台端末の活用	【知・技】確率の意味や法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値、独立な試行の確率を求めることができる。 【思・判・表】確率を求める方法を多面的に考察することができる。 【態度】確率を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	
2 学期	第2節 確率 【知・技】確率の意味や法則について理解できるようにする。 【思・判・表】確率について考察できるようにする。	9. 反復試行の確率 10. 条件付き確率 11. 期待値 ・一人1台端末の活用	【知・技】条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 【思・判・表】確率を求める方法を多面的に考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9
	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 【知・技】図形の性質について理解できるようにする。 【思・判・表】図形の性質を見だし、論理的に考察できるようにする。	1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 ・一人1台端末の活用	【知・技】三角形に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】図形の性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 【態度】図形の性質を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 【知・技】図形の性質について理解できるようにする。 【思・判・表】図形の性質を、論理的に考察できるようにする。	3. チェバの定理 メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 方べきの定理 7. 2つの円の位置関係 ・一人1台端末の活用	【知・技】三角形や円に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】図形の新たな性質を見だし、論理的に考察したり説明したりすることができる。 【態度】図形の性質を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
3 学期	第2節 空間図形 【知・技】図形の性質について理解できるようにする。 【思・判・表】数学の構造を見だし、数理的に考察できるようにする。	8. 直線と平面 9. 多面体 ・一人1台端末の活用	【知・技】空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思・判・表】図形の新たな性質を見だし、論理的に考察したり説明したりすることができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	5
	第3章 数学と人間の活動 【知・技】数学と人間の活動について認識を深めるようにする。 【思・判・表】図形の性質を見だし、論理的に考察できるようにする。	1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 ・一人1台端末の活用	【知・技】数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解している。 【思・判・表】数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		合計 70

成瀬 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科 数学 科目 数学B 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 数研出版「新課程 4STEP 数学Ⅱ+B」, Lean-S「進研 WIN STEP 数学Ⅱ・B Standard 新課程版」 ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。②数学と社会生活との関わりについて認識を深める。③事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	①離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力を養う。②確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断する力を養う。③標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力や、日常の事象等を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	①数学のよさを認識し活用しようとする態度を養う。②粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。③問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 数列 第1節 数列とその和 【知・技】一般項や第n項までの和を求めることができる。記号Σの意味を理解できるようにする。 【思・判・表】隣接する項の関係や和を考察できるようにする。 定期考査	1. 数列 2. 等差数列とその和 3. 等比数列とその和 4. 和の記号Σ ・一人1台端末の活用	【知・技】条件から等差数列、等比数列の一般項を決定できる。等差数列、等比数列の和が求められる。 【思・判・表】等差数列、等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。 Σの性質を利用して、和の計算を簡単に行うことができる。 【態度】等差中項、等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。	○	○	○	13
	第1節 数列とその和 【知・技】いろいろな数列について理解できるようにする。 【思・判・表】いろいろな数列の一般項について考察できるようにする。	5. 階差数列 6. いろいろな数列の和 ・一人1台端末の活用	【知・技】階差数列、和と一般項について理解し、それを利用して、もとの数列の一般項を求めることができる。 【思・判・表】初項から第n項までの和に着目したり、階差数列を利用して、一般項を考察できる。 【態度】群数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。	○	○	○	5
	第2節 数学的帰納法 【知・技】初項と漸化式から一般項を求められるようにする。 【思・判・表】数列の特徴を考察できるようにする。 定期考査	7. 漸化式と数列 ・一人1台端末の活用	【知・技】漸化式の意味を理解し、初項と漸化式から数列の一般項を求めることができる。 【思・判・表】漸化式を適切に変形して、数列の特徴を考察できる。 【態度】複雑な漸化式について考察しようとする。	○	○	○	5
2 学期	第2節 数学的帰納法 【知・技】数学的帰納法を理解し、証明できるようにする。 【思・判・表】数学的帰納法について考察できるようにする。	8. 数学的帰納法 ・一人1台端末の活用	【知・技】数学的帰納法を用いて、等式・不等式を証明することができる。 【思・判・表】自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解し、活用することができる。 【態度】数学的帰納法を利用して、証明しようとする。	○	○	○	7
	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 【知・技】確率変数の各値を求められるようにする。 【思・判・表】確率分布の特徴を考察できるようにする。 定期考査	1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 ・一人1台端末の活用	【知・技】確率変数の確率分布、期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 【思・判・表】確率分布の特徴を考察することができる。 【態度】確率分布を用いることよき気づき、進んで確率分布の特徴を調べようとする。	○	○	○	5
	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 【知・技】確率変数の変換公式を理解し、期待値を求められるようにする。 【思・判・表】確率変数の性質との相互関係を捉えられるようにする。 定期考査	3. 確率変数の変換 4. 確率変数の和と期待値 5. 独立な確率変数と期待値・分散 6. 二項分布 ・一人1台端末の活用	【知・技】確率変数の変換公式を理解し、確率変数の和と積の期待値を求めることができる。 【思・判・表】確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係を捉えることができる。 【態度】確率変数の同時分布、和の期待値の計算に積極的に取り組もうとする。	○	○	○	12
3 学期	第1節 確率分布 【知・技】確率変数の確率、期待値、分散を求められるようにする。 【思・判・表】正規分布を利用し、問題を考察できるようにする。	7. 正規分布 ・一人1台端末の活用	【知・技】連続的な確率変数について理解し、確率変数の確率、期待値、分散が求められる。 【思・判・表】日常の身近な問題を統計的に処理するのに正規分布を利用できる。 【態度】連続的な確率変数である正規分布に興味をもち、正規分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	6
	第2節 統計的な推測 【知・技】区間推定と仮説検定の方法を理解できるようにする。 【思・判・表】母集団の特徴や傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 定期考査	8. 母集団と標本 9. 標本平均とその分布 10. 推定 11. 仮説検定 ・一人1台端末の活用	【知・技】確率の理論を統計に応用し、正規分布を用いた区間推定と仮説検定の方法を理解できるようにする。 【思・判・表】母集団の特徴や傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 【態度】仮説検定によってさまざまな判断ができることに興味をもち、現実の問題の解説に役立てようとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		合計 70

成瀬 高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅲ

教科： 数学

科目： 数学Ⅲ

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：

使用教科書：（ 数研出版「数学Ⅲ」 ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章 関数 第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 【知・技】関数や極限について理解できるようにする。 【思・判・表】既習事項と関連付け考察をできるようにする。	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 4. 数列の極限 5. 無限等比数列 6. 無限級数 7. 関数の極限 8. 三角関数と極限 9. 関数の連続 ・一人1台端末の活用	【知・技】簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。数列の極限や無限級数の収束、発散について理解し、数列の極限や無限級数の和を求めることができる。 【思・判・表】既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察することができる。式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	22
定期考査 第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第4章 微分法的应用 第1節 導関数の応用 第2節 速度と近似式 【知・技】微分法について理解できるようにする。 【思・判・表】いろいろな関数とその導関数の関係について考察をできるようにする。	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 関数のいろいろな表し方 6. 接線と法線 7. 平均値の定理 8. 関数の値の変化 9. 関数の最大・最小 10. 関数のグラフ 11. 方程式、不等式への応用 12. 速度と加速度 13. 近似式 ・一人1台端末の活用	【知・技】微分可能性、関数の積及び商の導関数、合成関数の導関数、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりすることができる。 【思・判・表】導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察することができる。関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察することができる。 【態度】事象を微分法の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1
第3章 積分法 第1節 不定積分 第2節 定積分 第4章 積分法的应用 【知・技】積分法について理解できるようにする。 【思・判・表】極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができるようにする。	1. 不定積分とその基本的な性質 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. いろいろな関数の不定積分 5. 定積分とその基本的な性質 6. 定積分の置換積分法 7. 定積分の部分積分法 8. 定積分の種々の問題 9. 面積 10. 体積 11. 曲線の長さ 12. 速度と道のり ・一人1台端末の活用	【知・技】置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めることができる。 【思・判・表】関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察することができる。極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。 【態度】事象を積分法の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。	○	○	○	30
定期考査			○	○		1
総合問題演習 共通テスト対策	総合問題演習 共通テスト対策直前演習数学ⅠA 共通テスト対策直前演習数学ⅡBC	【知・技】基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。数学的な表現の工夫について認識を深め、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。 【思・判・表】学習した内容を相互に関連付けて捉え、考察することができる。問題演習の中で、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	30
定期考査			○	○		1
共通テスト対策	総合問題演習 共通テスト対策直前演習数学ⅠA 共通テスト対策直前演習数学ⅡBC	【知・技】基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。数学的な表現の工夫について認識を深め、数学的に表現・処理する技能を身に付けている。 【思・判・表】学習した内容を相互に関連付けて捉え、考察することができる。問題演習の中で、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現することができる。 【態度】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	28
						140

